

平成十六年六月二十九日受領  
答弁第一六四号

内閣衆質一五九第一六四号

平成十六年六月二十九日

内閣総理大臣 小泉純一郎

衆議院議長 河野洋平殿

衆議院議員長妻昭君提出年金の政府答弁に関する質問に対し、別紙答弁書を送付する。

衆議院議員長妻昭君提出年金の政府答弁に関する質問に対する答弁書

一について

お尋ねの第一百五十九回国会における答弁の年月日、答弁の場所、答弁者及び答弁の内容については、別表第一から別表第四までのとおりである。

二について

随意契約に関する別表第一に示した答弁については、契約の基本は競争入札であることから、随意契約が可能な場合であっても原則として、入札を行う等競争原理の導入を図ること及び、競争入札を避けることを目的とした少額の随意契約等適正を欠く契約についてその是正を図る方法などを検討しているところであり、具体的な内容は確定していないが、今後、速やかに契約事務処理の適正化を図ってまいりたい。

国民年金の仕事（広告等）に厚生年金保険の保険料を使うことに関する別表第二に示した答弁については、平成十六年四月九日の衆議院厚生労働委員会で取り上げられた年金広報は、国民年金を素材として公的年金制度の意義及び役割など公的年金制度全般に対する国民の理解を促進するために実施したものであることから、厚生年金及び国民年金に共通するものとして、その経費を厚生保険特別会計及び国民年金特

別会計から支出したものであるが、今後、広報等の事業を行う際には、個々の広報等の内容に応じてその財源をより合理的に区分してまいりたい。

第三者による検証に関する別表第三に示した答弁については、その検証の進め方について検討しているところであり、具体的な内容は確定していないが、できるだけ早期に第三者による検証を始めたいたいと考えている。

天下りに関する別表第四に示した答弁については、国が設置した厚生年金保険及び国民年金の福祉施設の経営の受託を主要な業務としている公益法人について、従来行ってきた現職の職員の退職に当たり退職者本人又は当該公益法人から要望がある場合の再就職のあつせんは、既に平成十六年四月から、原則として行わないこととしたところであり、今後、公務員制度改革における国家公務員の再就職の在り方に関する検討の結果を踏まえ、適切に対処していくこととしている。

### 三及び四について

御指摘の答弁については、国民を代表する国会において政府の考え方を述べたものであり、実施時期等に関して、その後の状況の変化等により変更する場合もあり得るが、誠実にその実施に向けて取り組んで

いく責務があると考えている。

別表第一 「厚生労働省の随意契約は無くす。」について

| 年月日        | 答弁の場所        | 答弁者    | 答弁の内容  |
|------------|--------------|--------|--|
| 平成16年4月21日 | 衆議院厚生労働委員会   | 厚生労働大臣 | 「また、先ほどから御提示されておりますさまざまな問題、これからもまた提示されるんだろうと思っております。そうした問題の一端想つたところにあるわけです。随意契約なわけです。この随意契約がそもそもすべて公開をして、入札制度にして、随意契約というら、どんなささいな問題であれ、すべて公開をして、入札制度にして、随意契約という厚生労働省のなかからやめる、こういうふうに今言っているところでございます。」  |
| 平成16年4月22日 | 参議院厚生労働委員会   | 厚生労働大臣 | 「厚生労働省のなかからやめますとどこに少ないうちでは、これは昨日衆議院でもお答えを申し上げたわけでございますが、いかに少ない額であろうとも随意契約というのは今後やめなさいやいなさい、これは競争入札にやほりして、すべて公開のものはやらなさいから、同じものを、本と申しますか手帳、手帳でしようか、中には本もある、それはどこにもある品物じやなく、その一つのことろしかないものでありますから、そこはよく、社会的な相場のというふうにはあるわけでありまして、そこを十分わきまえてこればやらなければいけないというふうには思っている次第でありまして、そこを二割というのが妥当なのかどうかという話はそれ以外の、一つのこれは相場ではないかという私は気がいたしました。」       |
| 平成16年4月23日 | 衆議院厚生労働委員会   | 厚生労働大臣 | 「これからいろいろなるものを彼所も購入しなさいやならない、あるいは利用しなさいやならないということがあるだろう。そうして、それが正常にきちんと行われたとしても、後でいろいろして随意契約でやるということでは、それが正常にきちんと行われたとしても、後でいろいろの不満を生むことにもなります。不信を招くことにもなるというふうには、私も率直にそう思っております。ですから、そういうふうなことを一つのことろでだめだと思っております。」   |
| 平成16年5月26日 | 衆議院決算行政監視委員会 | 厚生労働大臣 | 「これは、私は、これは未来永劫と思いますが、そのことろでは、やはり入札制度を導入していかないと、これは未来永劫と思いがたいと思っております。」  |
| 平成16年6月11日 | 衆議院厚生労働委員会   | 厚生労働大臣 | 「今回のこの問題に絡みまして、さまざまな御指摘をいただきました。私その内容を一つ一つ見てきたわけでございますが、やはり随意契約というのが多過ぎるということを私も感じるところです。随意契約を行うと、それがたとえ小さな額のものでも中には含まれておらず、地方単位のことを全部集めますと、やはりこれは原則として競争入札にしないといけないというふうな判断をいたしましたので、そのように役所に言っている中にもございませう。ただ、ワケチツのようにならぬように、何か所しかつていないというふうなものであれば、それはやむを得ないということもありません。競争のできるものは競争入札にするというところが、これは原則だということをやつてほしいということを書いたところでございませう。」 |
| 平成16年6月11日 | 衆議院厚生労働委員会   | 厚生労働大臣 | 「委員からは、今回のみならず前回でも、あるいはその前にも、エージェンシーの問題につきましてさまざまな御指摘を受けておられます。したがって、したがって、その随意契約なるものが根幹になつていて、あらゆる問題に発展をさせてきている、あるいはまた使途の問題でありますとかそういう問題が起つてきています。もう原則禁止ということにしなければならぬ。これは社会保障庁のみならず厚生労働省全体に言えることでございます。そういうふうにしてほしいと思っております。」  |

(注) 答弁の内容は、国会の会議録の抜粋である。

別表第二 「国民年金の仕事（広告等）」に厚生年金の掛け金を使うことに関して、見直す必要。」について

| 年月日       | 答弁の場所      | 答弁者    | 答弁の内容  |
|-----------|------------|--------|--|
| 平成16年4月9日 | 衆議院厚生労働委員会 | 厚生労働大臣 | 「御指摘のように、この国民年金と厚生年金と、それから政管健保の方の医療保険の方と、言えは三つあるわけでございます。物によりましては共通するものもございますので、それはやむを得ないところもございまして、物が、分けなきやならないところも、確かに、もうはつきりと分けなきやならないところもございまして、今後、分けるべきものはちゃんと分けさすようにしたいというふうに思っております。」 |

(注) 答弁の内容は、国会の会議録の抜粋である。

別表第三 「年金ムダ遣いに関して、第三者機関で退職金の支払の是非も含めて、問題を検証する。」、「年金ムダ遣いを検証する会のスタートは今国会中に行う。」及び「年金ムダ遣いを検証する会には、一般の皆さんも参加してもらおう。」について

| 年月日        | 答弁の場所    | 答弁者    | 答弁の内容  |
|------------|----------|--------|--|
| 平成16年3月3日  | 衆議院予算委員会 | 厚生労働大臣 | 「今御指摘をいただきましたような、第三者機関によって過去のものを一度検証するというのとは一つの方法ではないかと私も思います。検討させていただきます。」  |
|            |          | 厚生労働大臣 | 「今までの、過去の問題と今回の問題とはどうであったかというところは第三者によって一つの方法をしてももう一つの方法も、それは一つの方法でございましょう。」   |
|            |          | 厚生労働大臣 | 「一度これは第三者による検証をきちっとしていただくところからスタートをするのが適当ではないかというふうに思っております。」  |
|            |          | 厚生労働大臣 | 「過去の問題につきまして検証をしなければいけないということございまして、過去の問題を検証して、そして、どういう問題がそこに存在をしていたか、二度と再び同じようなことを繰り返さないようにするためにどうしたらいいかといったようなことのためにやる必要があると、それを申し上げたわけでありまして、そうしたことを踏まえて、今後、取り組みをさらに深めていきたいというところを申し上げたところでございます。」                                  |
| 平成16年3月4日  | 衆議院予算委員会 | 厚生労働大臣 | 「第三者委員会をつくり、年金の施設の問題等をチェックされるが、そこに、退職金を返上させるかどうかもテーマとして入っているかとの質問に対する答弁) 過去のさまざまな問題もございまして、検証をしなければいけないというふうに思っております。だからその中には、すべての問題も含めて検証をするということだというふうに思っております。」   |
| 平成16年3月5日  | 衆議院予算委員会 | 厚生労働大臣 | 「検証する限りは、身内でやっておってはいけませんから、一般の皆さん方にも御参加をいただいでやるということだと思っております。」  |
|            |          | 厚生労働大臣 | 「(第三者委員会をつくることについて、いつまでやるかの質問に対する答弁) スタートはこの国会が始まることについて、いつまでやるかということでありまして、これは過去の皆さん方に対しては、これから一体どうするかということをお示し申し上げる。これは過去の皆さん方に対して、過去の問題を検証をやっていただく。そして、今後の問題としてはどうするか、今まで引きずってまいりました問題をどうするかを明確にして、法律とともに御理解をいただくというところで私は思っております。」 |
| 平成16年3月8日  | 衆議院決算委員会 | 厚生労働大臣 | 「過去のことを清算をきちっと検証し、第三者にも入っていただくことと並行をしようと思っております、過去の清算をきちっと検証し、第三者にも入っていただくことと並行をして、そしてそれを見るところが大事でございまして、そういうことをやっていくことが大事。」   |
|            |          | 厚生労働大臣 | 「一遍過去を検討する、過去のことにつきまして一度検証をするということとこれは第三者を含めて行いたい、これは、行うのはもうそんなに掛かるとは思いませんから、いっしょに思っております。いつまでにするんだと多分おっしゃるんだらうと思っておりますから、最終のところは、これは始めていただいた皆さん方にある程度お任せをしながら進めてございまして、それは三年も三年も掛かることではないというふうに思っております。」                              |
| 平成16年3月28日 | 衆議院予算委員会 | 厚生労働大臣 | 「運営をどうするかという運営の問題もあつたというふうに思いますが、その運営はそれぞれ自治体にお任せをしてきたということもございまして、それらのことを検証を一回しなさいやらないというふうには思っております。そういう過去の歴史があることもこれは御理解をいただかなければならないというふうに思っております。」  |

(注) 答弁の内容は、国会の会議録の抜粋である。

別表第四 「天下りは見直す。参議院選までには何らかのものをまとめたい。」及び「天下りは原則禁止という方向。六月ぐらいまでに案をまとめる。」について

| 年月日        | 答弁の場所    | 答弁者    | 答弁の内容   |
|------------|----------|--------|---|
| 平成16年2月23日 | 衆議院予算委員会 | 厚生労働大臣 | (天下りの見直しについて、参議院選挙までには何かの提言をまとめるなりの約束ができないかとの質問に対する答弁)<br>「何らかのものはまとめたいと思います。」  |
| 平成16年3月3日  | 衆議院予算委員会 | 厚生労働大臣 | 「天下り問題につきましては、先日もここで御議論をいただいたところでございまして、原則禁止をしていくという方向性、その方向性で私も進みたいというふうにも思っております。したが、現在のようには、五十二、三歳で肩たたきをするというふうなことも、これはちよつとやめていかないといけない。もう少し長くお勤めいただければいいような環境をつくらなければならない、その先は、役所としていく、どこへ、どういうふうになる、第二の人生は自分で考える、その先は、もう考え直していく、それは、独自にお考えになっておきます。そうした場合、六月ぐらいの間、案をまとめるように御指摘をいたしたところでございまして、今国会、六月ぐらいまでにつくり上げていくか。先日もここで御議論をいただいたところでございまして、私もおそろした案をつくりたいと思っております。」 |

(注) 答弁の内容は、国会の会議録の抜粋である。